

株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



1 第373号

日経平均株価

3万6158円02銭

▲146円56銭(前日比)

TOPIX

2539.68

▲5.64(前日比)

2024
2/5
月曜日



AI向けの注力で選別が進みそう

AI向けの注力で選別が進みそう。ネット上でポトル

AI向けの注力で選別が進みそう。ネット上でポトル

高性能先端製品急拡大

性能半導体製造に絡み最先端の極

日米で主要企業の決算発表が本格化している。全般相場の急騰をけん引してきた半導体では「GPU」（画像処理装置）の世界的企業のエヌビディアとオランダの半導体製造装置メーカー・ASMLホールディングが好決算を発表する一方、半導体大手のインテルの第1四半期売上高見通しは市場予想を下回り株価が急落した。明暗を分けた要因はAI（人工知能）向けで先行するか否かであり、日本の半導体関連銘柄も今後はAI向けの注力で選別が進みそうだ。

エヌビディアの好IDの競合他社に先駆調はインテルやAM

端紫外線（EUV）リソグラフィ装置への受注が急増。その一方でインテルは従来向けサーバーやパソコン（PC）向けが苦戦している。

半導体関連はAIで選別 アドテストやレーザーテックなど

では57%の世界シェアを有しており、GPUに限れば独占に近いと言われ、エヌビディアの存在感が高まれば同社の重要性が更に増すことになる。EUV向けのマスク検査装置で市場を独占しているレーザーテック（6

920）もASMLと同様にAIで需要が高まることになり、半導体製造装置で世界3位の東京エレクトロン（8035）、ディスコ（6146）もAI半導体向けが今後貢献することになる。
TOWA（6315）は生成AI向け半導体の生産に最適な半導体モールド装置を開発、光通信向けレンズが拡大するエンプラス（6961）なども見逃せない。

日経平均の日足チャート



1月第4週の動意銘柄

半導体関連上値追い

SOX最高値で利食いこなす

週明け22日、レーザーテック(6920)、東京エレクトロン(8035)、アドバンテス(8576)、SCREENホールディングス(7735)など半導体関連が上値追



デバイシズなどが大幅高に買われ、SOX指数が4%高と急伸し最高値を更新した流れが追風にり利益確定売りをこなし強い動きが続いた。

エムケイシス業務提携

エムケイシス(3910)がストゥップ高。子会社のビジネスネットコーポレーションが、NTT Human EX

と業務提携をしたと発表したことが材料視された。人事制度の効率的・効果的な運用を支えるシステム・ソリューション(業務アプリケーション)と併せて、NTTグループの人材データ基盤/AI分析を活用したデータドリブン型の人事制度コンサルティングや運用支援を一気通貫で提供できる。

SANSEIストップ高

23日、SANSEI(6230)がストップ高。同社は24年3月期の業績予想に

益を押し上げた。

阿波製紙大幅下方修正

阿波製紙(3896)がストップ安。24年3月期の業績予想について、連結売上高で183億円から

I(6230)がストップ高。同社は24年3月期の業績予想について、連結営業利益で13億5000万円から18億円(前期比98.7%増)へ上方修正した。原材料・仕入価格が高騰・高止まりしているもの、高機能・高付加価値製品の売上が増加、生産効率化なども利

158億円(前期比8.7%減)へ、営業利益で4億8000万円から2億5000万円(同33.5%減)へ大幅に下方修正

ゲンダイAG下方修正

ゲンダイエージェンシー(2411)が反落。24年3月期の業績予想について、連結営業利益で5億円から

2億8000万円(前期比30.3%減)へ下方修正した。パチンコホール広告で次世代機導入に必要な投資資金確保のため、広告費支出は抑制が続いている。

エコシステム連続S高

日本エコシステム(9249)が連続ストップ高株主優待制

度新設が好感され、利回り妙味からの買いが続いており、この日は公共サービス事業で新事業所の開設を発表したことも支援材料になった。愛知県一宮市に電気・空調

した。水処理関連資材が中国経済の低迷と在庫調整の影響を受けている。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は反発しました。日経平均は前の週から406円上昇しています。ダウが最高値を更新するなど米国株の強い動きを受けて週明けに大幅に上昇した後はFOMCを前に上値が重く、米大手の反発の議長発言後退したこなる場面が期金利が低切り返し、今週は3Q決り、個別株物迎え、個別株物でしよう。Fの長期金利は低の決算でAIのきました。引き続き決算の内容と株価の反応を確認しながら、半導体関連のなかでも成長分野のAIに関する銘柄の買い場を探る考えです。花咲翁

AI関与の半導体関連狙う

算発表前半のピークを色の流れがさらに強まると期待されています。OMCを通過して米国下、米大手テック企業成長性の高さも確認で



衛生設備部門の新拠点を開設、買収した村川設備工業とソリューション提供を加速するとしている。

銀行株は緩和修正観測

24日、三菱UFJフィナンシャルグループ(8306)などメガバンクや千

葉銀行(8331)をはじめ地銀株を含め銀行株が軒並み高日銀の展望リポートの内容や植田総裁のタカ派的発言会見を受けて大規模緩和縮小への懸念が台頭し、運用環境改善による収益拡大を期待した買いが広がった。

櫻護謨がストップ高

大口案件で今期上方修正

確保できる見通し。

不二油利益予想減額

不二製油グループ
本社(2607)が

急反落。23日の取引終了後、24年3月期の業績予想の修正を発表、連結純利益で160億円から65億円(前期比6.1%増)へ下方修正した。子会社に絡む追加的なれん償却費用が発生した。

24日、櫻護謨(5189)がストップ高。24年3月期の業績予想について、連結売上高で104億円から114億円(前期比6.6%増)へ、営業利益で3億1000万円から6億6000万円(同55.3%増)へ大幅に上方修正した。消防・防災事業において、第1四半期に資機材販売の大口案件があったことに加え、期末までの販売も前期並みの案件を

ニデック構造改革で減額

25日、ニデック(6594)が続急落。24年3月期の業績予想について、連結売上高で2兆2000億円から2兆3000億円(前期比2.5%増)へ、営業利益で2200億円から1800億円(同80.1%増)へ修正、期末配当を35円から40円(前年同期35円)へ引き上げると共に上限200万株(発行済株式総数に対する割合0.34%)または110億円の自己株式取

GENDA目標株価引上げ

GENDA(9166)がストップ高。岩井コスモ証券が投資判断「A」継続、目標株価を2900円から4000円へ引き上げた。



松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引
コスト

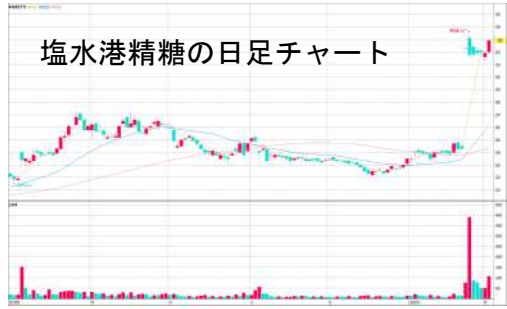
プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのパナーをクリック



塩水糖がストップ高 大幅上方修正で営業益2.4倍

00万円(前期比2.4倍)に大幅に上方修正した。精糖の販売価格引上げが進んだ。普通配当に特別記念配当を上乗せ年間配当を5円から9円(前期5円)に引

25日、塩水港精糖(21)がストップ高。2月4日の連結業績の予想に比べて、営業利益を5億2000万円から1億7000万円(前期比63.5%増)へ上方修正、期末一括配当を64円から84円(前年同期25円)へ引き上げた。電材・管材で第1四半期から始めた価格改定が想定以上に進捗、配線器の価格改定も第3四

未来工上方修正で増配

き上げ、長期保有株主優待制度を新設すると発表したことでも好感された。

週末26日、未来工業(7931)がストップ高。24年3月期の業績予想について連結営業利益が59億1100万円から66億1400万円(前期比63.5%増)へ上方修正、期末一括配当を64円から84円(前年同期25円)へ引き上げた。電材・管材で第1四半期から始めた価格改定が想定以上に進捗、配線器の価格改定も第3四

半導体関連軒並み安

半期から浸透した。レーザータック(6920)やアドバンテスト(6857)、デイスコ(6146)を筆頭に半導体関連が軒並み値を崩した。インテルの第1四半期の売上高見通しが市場予想を下回ったことで時

植松商会S高 上方修正で増配

週明け29日、植松商会(991)がストップ高。24年3月期の業績予想に

1月第5週の動意銘柄

で65億5000万円から71億9000万円(前期比11.0%増)、営業利益で4800万円から7600万円(同2.17倍)上方修正、期末一括配当を25円から30円(前期25円)へ引き上げた。

自動車産や製造業の設備需要回復で機械・工具販売が拡大。豊田織デューセル試験不正(210)が後場急落。この日14時30分にトヨタ自動車(7203)向けの自動

車用のデューセルエンジン試験で不正があったと発表したことが嫌気された。今回の調査結果を踏まえ、トヨタは豊田自動織機にて対象のエンジンの出荷を一旦停止すること決定している。

光学フィルムやIT少もハイエンドスマートフォン向け組み立て用部材は新需要が増加。同時に発行済株式総数の2.1%の300万株、300億円の自社株取得枠を設定した。

大平洋金は大量保有(41)が14%を超える大幅高。大量保有報告書で投資ファ

ンドのシティインデックスイレブンスと共同保有者による株式保有割合が5.7%となったことで思惑買いを集めた。

日東電工は最高値(988)が最高値更新。24年3月期第3四半期累計決算は連結営業利益で前年

転ばぬ先のテクニカル

陰の陽孕み

先週の東京株式市場は反発しましたが、終値ベースで見ると上下275円と小幅な値動きで3万6000円を挟んで上値遊びしているように見えます。週足のローソク足は陰の陽孕み。酒田五法では「孕みは分岐の前提なり、孕みより分岐した方につくを可とす」としており、今週の相場は重要と言えそうです。

今週末はオプションSQとなるために週半ばは波乱の展開もありましょう。毎週月曜日に公表されるオプション手口をみていると、大口投資家の外資系証券は3万5500円~3万6000円を狙ったポジションを組んでいるところが多いように見えます。2月5日に公表される手口でどのように変化しているのか確認する必要があります。

米債利回りの低下傾向により円高へと進みつつあり、指数インデックスよりも個別株対応で臨む局面かと思われま

日々勇太郎



～決算情報～

ハリマ化成G

3Q赤字縮小し通期増額 販売価格引き上げ進み需要も回復

ハリマ化成グループ（4410）の24年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高696億600万円（前年同期比3.1%減）、営業損益1億9300万円の赤字（前年同期24億7700万円の黒字）と減収赤字ながら、第2四半期の6億700万円の赤字から赤字幅が縮小。通期予想を売上高910億円から930億円（前期比1.6%減）、営業損益を14億円の赤字から4億5000万円の赤字（前期17億6000万円の黒字）に上方修正した。

エネルギー価格高騰により製造原価は上昇しているものの、販売価格引き上げが進み、樹脂化成品は需要も回復、電子材料ははんだ材料事業買収効果で海外事業が拡大しており、赤字が大きく縮小する。

日本精線

3Q自動車、建材向け鈍化 減収減益も1対5株式分割実施へ

日本精線（5659）の24年3月期の第3四半期累計（4～12月）決算は、連結売上高で331億4300万円（前年同期比10.9%減）、営業利益で23億1200万円（同31.3%減）、純利益で17億1200万円（同29.5%減）となった。ステンレス鋼線は、第2四半期から自動車用途や建材用途の荷動き鈍化が鮮明となり、第3四半期も調整が長期化。金属繊維（ナスロン）は半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（Nasclean）の実需低迷が続いている。

通期は連結売上高で437億円（前期比10.9%減）、営業利益で30億円（同28.2%減）、純利益で21億7000万円（同29.7%減）の従来予想を継続。3月29日を基準日として1対5の株式分割を行う。



航空電子（6807）は保有株のう
の資本関係見直し、要
請に応じた措置で、
NECは保有株のう
る。筆頭株主のNE
C（6701）から
の資本関係見直し、要
請に応じた措置で、
NECは保有株のう
る。筆頭株主のNE
C（6701）から

航空電急落し新安値

14%デイスカウントTOB

30日、航空電子（6807）が急落し、保有比率は50.8%から33.3%に低下する。

三社電S高で新値

三社電機製作所（6882）がスト

M&A総利益倍増

比較はないが、前年同
決算着移、前行で
5300万
業利益は、3億
結算は、9月第
14年9月第
24年9月第
がストップ高
（9552）
ルディングス
&A総研ホ
31日、M

振れが期待された。上
通期計画の大幅な上
価も上昇して、成約単
型案件が増え、成約単
成約件数が倍増、強
アドバイザの増強、
%に達した。M&A
る進捗率は4.6
7.2%（前期比5.7
2億2000万
おり、通期計画の7
と収益が急拡大して
期単独比で2.4倍
期収益が急拡大して
増益ピッチが高まっ
たことと期待した買
上振れを期待した買
いを集めた。ク

から30億円（前期比
期予想を25億円か
大幅に拡大した。通
大（4倍）と利益が
50万円（前年同期比
0.4倍）と利益が
る。筆頭株主のNE
C（6701）から
の資本関係見直し、要
請に応じた措置で、
NECは保有株のう
る。筆頭株主のNE
C（6701）から

0.1%増）と
地、直近3カ月の
41.5%増）で着
0.1%増）と
業利益15億100
累計の連結決算は営
年3月期第3四半期
がストップ高。24
ングス（2980）
SREホールデイ
SREHD営業益2.9倍
30円）へ増配する。
配当を50円（前期
で計画を超過。年間
で計画を超過。年間
方修正したが、3Q上
84.1%増）へ上

～決算情報～

カプコン

3Q43%の大幅営業増益 グローバル販売伸びリポートも寄与

カプコン（9697）の24年3月期の第3四半期累計決算は連結売上高で1061億7900万円（前年同期比33.3%増）、営業利益で477億0400万円（同43.1%増）と大幅な増収増益で着地した。

大型新作で昨年6月に投入した「ストリートファイター6」がグローバルで販売本数を伸ばし、デジタル販売を通じたリポートタイトルの積極的な販売推進も寄与。売上高1400億円（前期比11.2%増）、営業利益560億円（同10.2%増）と「11期連続の営業増益となる通期計画に向かって想定通りに進捗」（会社側）としている。モバイルコンテンツでは、昨年9月配信の「モンスターハンターナウ」のグローバルダウンロード数が1000万を突破している。

三相電機

営業増益で通期計画超過 3Q部材安定調達と販売価格引上げ

三相電機（6518）の24年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高137億3900万円（前年同期比1.8%増）、営業利益6億8600万円（同2.2%増）、最終利益5億4200万円（同2.5%減）で着地した。

半導体設備投資の抑制やセットメーカーの在庫調整の影響で半導体製造装置用ポンプが伸び悩み、産業機械用モータの受注も一部で減速したが、部材の安定調達と販売価格引上げにより、増収営業増益を確保した。

通期は売上高177億円（前期比4.9%減）、営業利益6億8000万円（同24.6%減）、最終利益5億円（同38.7%減）と期初予想を据え置いたが、利益は第3四半期時点で通期計画を超過。期末一括配当は27円を据え置いた。



連結最終損益で2億9900万円の黒字（前年同期3億9500万円の赤字）に浮上したことを好感し、買収したことを好感し、投資有価証券売却益

第一工業ストップ高 第3四半期最終黒字浮上を好感

第一工業製薬（4614）は3月1日、ストップ高となった。同日の取引終了後、3月期の第3四半期累計（12月）決算を公表、

1日、テクマトリックス（3762）が急伸、昨年来高値を更新した。24年3月期の第3四半期累計決算を発表、連結営業利益で前年同期比35.2%増の38億2400万円と大幅な増益となったことが好感された。アプリケーション・サービスではCRM・分野で、大手システム・インテグレーションや、ベンダーとの業務提携、知名度の向上と実績の引き合い、新規の引き

テクマトリックス（3762）が急伸、昨年来高値を更新した。24年3月期の第3四半期累計決算を発表、連結営業利益で前年同期比35.2%増の38億2400万円と大幅な増益となったことが好感された。アプリケーション・サービスではCRM・分野で、大手システム・インテグレーションや、ベンダーとの業務提携、知名度の向上と実績の引き合い、新規の引き

テクマトリ 35%営業増益

アルプスアルパイン（6770）が大幅反落。24年3月期の業績予想について、連結売上高で9600億円から9570億円（同2.6%減）へ、営業利益

1日、ABEJA（5574）がストップ高。テレビ東京が「政府は、国産の生成AIの開発力を強化するため、基盤モデルを開発する国内7者を探し支援する方針を固めた」と報じた。採択されるのは「ABEJA、Premerred、Starkmark、S Takana AI、Turina AI」としている。

ABEJA生成AI採択

325億円から165億円（同50.9%減）へ下方修正した。一部主要顧客へのスマートフォン向け製品の売上構成が変化、モジュール新製品の生産立上げに伴うコスト増加による低収益製品が増加している。

～決算情報～

TOA

あじかん

3Q営業益3.3倍で通期増額 工場など国内販売伸び収益性改善

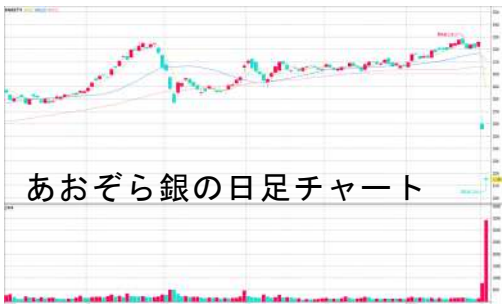
TOA(6809)は24年3月期第3四半期連結決算は、売上高343億8900万円(前年同期比9.0%増)、営業利益19億9000万円(同3.3倍)、最終利益15億5800万円(同77.0%増)と利益が大幅に拡大、通期予想について売上高は490億円(前期比8.6%増)で据え置いたが、営業利益を28億円から32億円(同86.8%増)へ、最終利益を16億円から18億円(同1.9%増)上方修正した。年間配当40円を継続。

鉄道車両向け出荷は遅延が続いているものの、工場や病院、交通市場向けに国内販売が伸び収益性が改善、海外でもアジア・パシフィック、欧州・中東・アフリカ、アメリカ、中国・東アジアの全地域で利益が増加している。

今3月期上方修正で増配 業務用需要拡大、価格改定、円安も

あじかん(2907)は24年3月期の通期業績予想について連結売上高では500億円(前期比4.3%増)を据え置いたが、営業利益では9億5000万円から12億円(同13.48倍)へ、純利益では9億5000万円から11億5000万円(同4.30倍)へ上方修正、期末一括配当を15円の普通配当に5円の特別配当を加えた20円(前期16円)に引き上げた。

年末年始の繁忙期において業務用食品などの需要が拡大し、恵方巻関連の受注状況も順調に推移。価格改定浸透や繁忙期に比較的粗利益率の高い自社製造製品が拡大したことに加え、主材料価格が想定より安定推移。さらに、想定以上に円安が進行したことで、為替予約の決済差益や時価評価益が拡大している。



1日、あおぞら銀(8304)がストップ安。1月31日の取引終了後、24年3月期の業績予想に於いて、連結経常損益で310億円(黒字から490億円の赤字へ修正した)の赤字懸念が浮いた。全米の不動産市場向け不動産案件を改めて精査し、足元の株価に於いて今後2年間の価格下落リスクを勘案したフォワードリングの観

あおぞらストップ安

米不動産ローン見直し経常赤字

点から物件評価の見直しを行い、現時点で想定される最大限の備えとして、第3四半期において324億円の引当金繰入を計上している。

テレビ局外人買い期待

日本テレビホールディングス(9400)がストップ高となり、テレビ朝日ホールディングス(9400)も、TBSホールディングス(9400)と、テレビ東京ホールディングス(9400)も、テレビ朝日ホールディングス(9400)も、テレビ朝日ホールディングス(9400)も、テレビ朝日ホールディングス(9400)も、

76)の放送株が軒並み買われた。日本テレビホールディングスが外国人株主への配当が可能となる定款変更を株主総会に提案することを受け、今後、テレビ局各社が同様の動きになれば外国人買いが活発化する

山特鋼下方修正減配

山陽特殊製鋼(5481)が急落。24年3月期の業績予想について、連結売上高で3800億円(前期比9.9%減)、営業利益で200億円(前期比11.4%減)へ下方修正、年間配当を100円から65円へ引き下げた。

田中化研上方修正復配

田中化学研究所(4080)がストップ高。24年3月期の業績予想について、連結営業利益で10億円から22億7000万円(前期比52.2%増)へ修正、期末一括配当を無配から4円(前期4無配)に引き上げた。

半導体出遅れの村田製

先週の東京市場はFOMCや米国の大手企業の決算に一喜一憂する動きとなりましたが、そうした中で好決算銘柄の物色が活発化しました。

ことを考えると、来期以降も増益を維持するものの、株価を大幅に伸ばすのが難しいと思われず。1000円台の回復は今のところ難しいと見ています。

昨年から幾度となく紹介しております野村ホールディングス(8604)は1月31日に発表された第3四半期決算の営業利益の伸びや自社株買いで2月1日に大幅上昇で820円台まで買われました。その後は利益確定売りに上値を抑えられ、引けに駆け上げ幅を縮小し、この日のほぼ安値で終えました。

米国の市場ではAI関連やアマゾンのような通販大手が好決算を発表し、これを好感して高値を更新したスクリーンをはじめ東京エレなどが物色されていきます。この関連銘柄で業績の伸びを見込めなかったために、株価に動きがなかった村田製作所(6981)が注目できそうです。3000円台に乗せて上値を窺うと予想されます。一方、自動車ではホンダ、スズキなどが買われていました。この動きが日産自動車(7201)にも及ぶと考えられます。小物では、やまびこ(6250)が好決算見込みでまだ割安感が強く、更に買われると

高野恭壽の株式情報

これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



期待したものの、増益となった。今期は調整局から可能性が強いとみています。今期の業績予想が増益となった。今期は調整局から可能性が強いとみています。今期の業績予想が増益となった。今期は調整局から可能性が強いとみています。

小物ではやまびこ

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

購読会員募集中!

<https://marketpress.jp/subscribe/>

株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

短期値幅取り候補銘柄!!



【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!! 花咲 翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞

www.marketpress.jp

星野三太郎の株街往来

～自分自身の投資スタイル～

1月の東京市場は23日に3万7000円近く上昇した後にスピード調整した。

今回に限らずTVのニュースで話題になるほどの上昇になると「自分には儲かっていない」との話を周囲で聞くことになるのだが、売買している銘柄を聞くと

建設株だけとか、低位の小売株ばかりとか好みのセクターに偏っていることが多い。筆者だつてゲーム株を買う時が多かったときがあるが、自身の趣味で銘柄を選んでしまつて物色の流れについていけなくて儲からない方は少なくないと思う。今回の局面ではハイテクを買っていた投資家が利益を得ているだろうが、乗り遅れてハイテクを買った投資家は高値掴みで月末の急落から投げってしまったのではと思う。

銘柄選別と投資方法に正解はない。いつも見ている銘柄が人気が無くて動いていなくても、よく知っているのだから業績と株価推移を見て誰よりも動くタイミングで買えるだろう。色んな考え方があろうけど、周りに流されずに自分自身の投資スタイルを確立するのも重要だ。待つのも投資。余裕を持った投資を心掛けたい。



New product

森永製菓の「ホットケーキミックス」バレンタインデーに合わせて発売

森永製菓
ホットケーキミックス
ダース<ミルク>



森永製菓(2201)は30周年を迎えた「ダース<ミルク>」とコラボした「ホットケーキミックスダース<ミルク>」をバレンタインデーに合わせて期間限定で発売している。

ミルクにこだわった粒チョコレート「ダース<ミルク>」の味わいをイメージしたホットケーキが手軽に作れ、ケーキやカップケーキなどアレンジも楽しめるので、バレンタインにもぴったりで、チョコのやさしい甘さと香りで心と体がほっと温まるような特別な味わいを実現している。しっかり膨らみ、幅広いアレンジが楽しめ、「ダース<ミルク>」を使用したアレンジレシピ2件をパッケージに掲載している。

バレンタイン特集を実施

ベルーナ

褒美チョコから変わり種まで



ベルーナ(9997)が展開するグルメ専門通販「ベルーナグルメ」はWEBサイトとカタログ「2024 St. Goncharov Jewelry Garden」を2024年2月4日、2月5日、2月6日、2月7日、2月8日、2月9日、2月10日、2月11日、2月12日、2月13日、2月14日、2月15日、2月16日、2月17日、2月18日、2月19日、2月20日、2月21日、2月22日、2月23日、2月24日、2月25日、2月26日、2月27日、2月28日、2月29日、3月1日、3月2日、3月3日、3月4日、3月5日、3月6日、3月7日、3月8日、3月9日、3月10日、3月11日、3月12日、3月13日、3月14日、3月15日、3月16日、3月17日、3月18日、3月19日、3月20日、3月21日、3月22日、3月23日、3月24日、3月25日、3月26日、3月27日、3月28日、3月29日、3月30日、3月31日、4月1日、4月2日、4月3日、4月4日、4月5日、4月6日、4月7日、4月8日、4月9日、4月10日、4月11日、4月12日、4月13日、4月14日、4月15日、4月16日、4月17日、4月18日、4月19日、4月20日、4月21日、4月22日、4月23日、4月24日、4月25日、4月26日、4月27日、4月28日、4月29日、4月30日、5月1日、5月2日、5月3日、5月4日、5月5日、5月6日、5月7日、5月8日、5月9日、5月10日、5月11日、5月12日、5月13日、5月14日、5月15日、5月16日、5月17日、5月18日、5月19日、5月20日、5月21日、5月22日、5月23日、5月24日、5月25日、5月26日、5月27日、5月28日、5月29日、5月30日、5月31日、6月1日、6月2日、6月3日、6月4日、6月5日、6月6日、6月7日、6月8日、6月9日、6月10日、6月11日、6月12日、6月13日、6月14日、6月15日、6月16日、6月17日、6月18日、6月19日、6月20日、6月21日、6月22日、6月23日、6月24日、6月25日、6月26日、6月27日、6月28日、6月29日、6月30日、7月1日、7月2日、7月3日、7月4日、7月5日、7月6日、7月7日、7月8日、7月9日、7月10日、7月11日、7月12日、7月13日、7月14日、7月15日、7月16日、7月17日、7月18日、7月19日、7月20日、7月21日、7月22日、7月23日、7月24日、7月25日、7月26日、7月27日、7月28日、7月29日、7月30日、7月31日、8月1日、8月2日、8月3日、8月4日、8月5日、8月6日、8月7日、8月8日、8月9日、8月10日、8月11日、8月12日、8月13日、8月14日、8月15日、8月16日、8月17日、8月18日、8月19日、8月20日、8月21日、8月22日、8月23日、8月24日、8月25日、8月26日、8月27日、8月28日、8月29日、8月30日、8月31日、9月1日、9月2日、9月3日、9月4日、9月5日、9月6日、9月7日、9月8日、9月9日、9月10日、9月11日、9月12日、9月13日、9月14日、9月15日、9月16日、9月17日、9月18日、9月19日、9月20日、9月21日、9月22日、9月23日、9月24日、9月25日、9月26日、9月27日、9月28日、9月29日、9月30日、10月1日、10月2日、10月3日、10月4日、10月5日、10月6日、10月7日、10月8日、10月9日、10月10日、10月11日、10月12日、10月13日、10月14日、10月15日、10月16日、10月17日、10月18日、10月19日、10月20日、10月21日、10月22日、10月23日、10月24日、10月25日、10月26日、10月27日、10月28日、10月29日、10月30日、10月31日、11月1日、11月2日、11月3日、11月4日、11月5日、11月6日、11月7日、11月8日、11月9日、11月10日、11月11日、11月12日、11月13日、11月14日、11月15日、11月16日、11月17日、11月18日、11月19日、11月20日、11月21日、11月22日、11月23日、11月24日、11月25日、11月26日、11月27日、11月28日、11月29日、11月30日、12月1日、12月2日、12月3日、12月4日、12月5日、12月6日、12月7日、12月8日、12月9日、12月10日、12月11日、12月12日、12月13日、12月14日、12月15日、12月16日、12月17日、12月18日、12月19日、12月20日、12月21日、12月22日、12月23日、12月24日、12月25日、12月26日、12月27日、12月28日、12月29日、12月30日、12月31日

今年もご褒美チョコから変わり種まで多種多様なバレンタイン商品が登場。ベルーナオリジナルパッケージに入った、洋菓子メーカー「ゴンチャロフ」と「モロゾフ」のチョコレートが今年新発売。ゴンチャロフはかわいらしい猫が住むお庭をイメージしたパッケージで、華やかなデザインはプレゼント用にもおススメ。モロゾフは、カラフルなマーガレットと中央に天使の羽をあしらった缶のデザインで、チョコを食べた後は小物入れとしても使えるため、子供から大人まで喜ばれる商品。

企業レター

潮流

米国株強気に変化なし

生成AIはビッグビジネス

marKet / bAnk

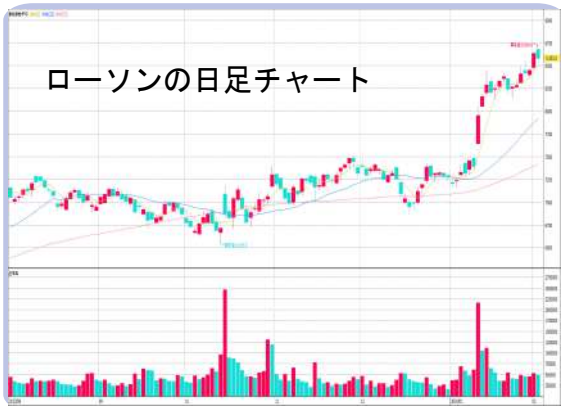


1月31日の米株式市場でダウ工業株30種平均は過去最高値を更新後に下落した。米連邦準備理事会（FRB）が1月31日まで開いた米連邦公開市場委員会（FOMC）で早期の利下げに慎重な姿勢を示したからだ。

FOMCでは政策金利を4会合連続で据え置いた。市場が注目する声明文では「インフレ率が政策目標である2%に持続的に向かっているというより強い確信を持つに至るまでは、利下げは適切ではない」と、早期の利下げ観測をけん制する文言が追加された。

パウエル議長は記者会見で「委員会が3月会合までに利下げを確信できるレベルに達する可能性は低い」と述べた。ゴールドマン・サックスは利下げ開始時期を5月に変更した。24年中に5回、25年は3回の計8回の利下げを実施するとの予想。想定以上の物価の伸び率鈍化に伴う予防的な利下げの必要性は変わらないとの見方だ。

米資産運用大手ブラックロックは6～12カ月先の米国株の投資判断を「ニュートラル（中立）」から「オーバーウエート（強気）」に引き上げた。FRBの利下げ開始で「市場がバラ色の経済見通しを堅持するのに伴い米株式相場の上昇幅は拡大する」と予想した。多くの機関投資家が運用指標とするS&



1月31日の米株式市場でダウ工業株30種平均は過去最高値を更新後に下

落した。米連邦準備理事会（FRB）が1月31日まで開いた米連邦公開市場委員会（FOMC）で早期の利下げに慎重な姿勢を示したからだ。

FOMCでは政策金利を4会合連続で据え置いた。市場が注目する声明文では「インフレ率が政策目標である2%に持続的に向かっているというより強い確信を持つに至るまでは、利下げは適切ではない」と、早期の利下げ観測をけん制する文言が追加された。

パウエル議長は記者会見で「委員会が3月会合までに利下げを確信できるレベルに達する可能性は低い」と述べた。ゴールドマン・サックスは利下げ開始時期を5月に変更した。24年中に5回、25年は3回の計8回の利下げを実施するとの予想。想定以上の物価の伸び率鈍化に伴う予防的な利下げの必要性は変わらないとの見方だ。

米資産運用大手ブラックロックは6～12カ月先の米国株の投資判断を「ニュートラル（中立）」から「オーバーウエート（強気）」に引き上げた。FRBの利下げ開始で「市場がバラ色の経済見通しを堅持するのに伴い米株式相場の上昇幅は拡大する」と予想した。多くの機関投資家が運用指標とするS&

P500種株価指数は1月30日に過去最高値を更新している。

相場を牽引しているのが生成人工知能（AI）で一人勝ちの様相を強める画像処理半導体（GPU）の米エヌビディアだ。2023年に生成AI

の普及が始まり、機械学習用の大量のデータ処理が可能な高性能サーバーなどの需要が増えた。エヌビディアの株価は昨年3.4倍になった。今後は、企業向けのITサービスや、パソコンやスマートフォンでも普及が見込まれる。生成人工知能（AI）を企業システムに組み込むためのビジネスは、うまく立ち上がれば向こう10年弱の中長期的なビッグビジネスとなるという。

一方、年初から上昇基調が強かった大型ハイテク銘柄は利益確定売りが強まっている。グーグルの親会社であるアルファベットやソフトウェアのマイクロソフトは決算発表と同時に材料出尽くしで売られた。短期的な調整は長期上昇トレンドにはむしろ健全で必要な動きだ。米国株の強気姿勢には変化はない。

潮流銘柄はローソン（2651）、モンスターラボホールディングス（5255）、BASE（4477）。

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」で紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>

牽引するのはエヌビディア



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約406円高と反発、週足陽線となった。注目された米FOMCではパウエル議長が市場の早期の利下げ観測を否定したため高値圏にあったNY市場は下落した。その影響で日本株も売られたが、3万6000円を割り込むと買いが入り先週は引け値で36000円を一度も割らなかつた。

どうやら当面の安値は3万5700円前後とみられるが、逆に3万6000円を大きく上回って寄り付くと売りが出ると上値の重さも感じられる相場であった。



2月相場は「節分天井、彼岸底」と言われる



今日、騰落レシオが130%に入っており過熱

今年初からハイペースで上昇しており、2月のSQが短期的な相場の転機になる可能性があることには注意したい。今週のレンジは3万5700円〜3万6900円を想定する。
(ハチロク)

今日注目される大きなイベントは無いが2月限のSQ週である。1月のSQ週に大きく買い上げられたのは記憶に新しい。SQ週はオプションと絡めて動かしやすい週であり、しかも現在値は売りが少ない「真空地帯」である。31日は安値と高値が約800円幅になっている。仕掛け的な買いが入ってくる

2月相場はよく「節分天井、彼岸底」と言われる。過去直近20年の2月の日経平均株価の勝率は12勝8敗、10年間では5勝5敗である。日別で見れば騰落率が高いのは2日、一番低いのは21日となるように「前半高、後半安」になる傾向があり格言通りと言えそうだ。

今日注目される大きなイベントは無いが2月限のSQ週である。1月のSQ週に大きく買い上げられたのは記憶に新しい。SQ週はオプションと絡めて動かしやすい週であり、しかも現在値は売りが少ない「真空地帯」である。31日は安値と高値が約800円幅になっている。仕掛け的な買いが入ってくる

感も漂う。強弱感が対立しボラティリティの高い展開となる。

1月SQ週の再来あるか?

格言通り「節分天井、彼岸底」

日経平均に先んじてTOPIXでは1月31日に終値ベースで1月23日の終値を抜き、33年1か月振りの高値更新となっている。海外投資家は前週まで4週連続で合計約2兆円日本株を買い越したが、先週も幅広い銘柄に買いを入れているようである。



相場見通し

記者の視点

決算にらみ個別物

トヨタや任天堂など注目

強含み動きになった。注目された米FOMCで「インフレ率がFRBが目標とする2%に向かって継続的に動いている」という確信が深まるまで金利を引き下げるのが適切であるとは考えていない」と表明したことで3月の利下げ時期が5月頃になるとの見方が、その後発表された週間の米新規失業保険申請件数が事前予想を上回ったこと、再度、早期の利上げ期待が高まった。決算に関して

7日に日本製鉄、8日に三菱商事、トヨタ、三菱重工、任天堂、船、6日にエーザイ、忠、三菱UFJ、郵、5日に住友商事、伊藤、ストラゼネカやシームテクノ、8日にアイズニー、ウーバー、イエンズ、7日にイスター、ギリアドサ、は6日にフォード、個別物色の色彩が強い。米国の融イイベントが通過したこと、決算発表を睨みながらの再開される。

1月最終週から2月第1週にかけての東京市場は米FOMCや日米主要企業の決算発表が相次ぎ警戒感の強い動きになったが、日経平均では3万6000円を割れる場面では押し目買いは入り、週末2日にはやや強含み動きになった。注目された米FOMCで「インフレ率がFRBが目標とする2%に向かって継続的に動いている」という確信が深まるまで金利を引き下げるのが適切であるとは考えていない」と表明したことで3月の利下げ時期が5月頃になるとの見方が、その後発表された週間の米新規失業保険申請件数が事前予想を上回ったこと、再度、早期の利上げ期待が高まった。決算に関して

1月最終週から2月第1週にかけての東京市場は米FOMCや日米主要企業の決算発表が相次ぎ警戒感の強い動きになったが、日経平均では3万6000円を割れる場面では押し目買いは入り、週末2日にはやや強含み動きになった。注目された米FOMCで「インフレ率がFRBが目標とする2%に向かって継続的に動いている」という確信が深まるまで金利を引き下げるのが適切であるとは考えていない」と表明したことで3月の利下げ時期が5月頃になるとの見方が、その後発表された週間の米新規失業保険申請件数が事前予想を上回ったこと、再度、早期の利上げ期待が高まった。決算に関して



当面のスケジュール

- 5日 米1月ISM非製造業景況指数
- 6日 12月毎月勤労統計調査
12月家計調査
- 7日 12月景気動向指数
米12月貿易収支
- 8日 1月景気ウォッチャー調査
中国1月生産者物価、中国1月消費者物価
- 9日 1月マネーストック
オプションSQ
- 13日 1月国内企業物価指数
1月工作機械受注
NISAの日
米1月消費者物価
- 15日 10-12月期GDP
米2月NY連銀製造業景況指数、米1月小売売上高、米2月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
米1月鉱工業生産・設備稼働率
- 16日 12月第三次産業活動指数
米1月住宅着工件数
米1月生産者物価

融イイベントが通過したこと、決算発表を睨みながらの再開される。

（5871）からIPOが再開される。

（7203）などが注目される。7日のSOLIZE

（7974）や子

任天堂（7974）や子

任天堂（7974）や子

任天堂（7974）や子

編集後記

決算発表が本格的に始まったが、大手企業を中心に、おおむね順調で株価の反応も悪くない。3Qともなるとは、通期見通しを織込んでいて、好決算でも出尽くし感から売られる一方、足もとの業績が冴えなくても、来期の回復や成長期待から買われることも多い。日本経済が30年来続いたデフレ経済から脱却し始めたからだろう。今回は後者のケースが増えているように感じる。

ただ、日銀が政策修正を模索し始めたことで、前提になる為替が円高傾向にあることが気になる。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。